

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201872		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社静岡支店		
事業所名	静岡ケアハートガーデン・グループホーム新伝馬		
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1-2-14		
自己評価作成日	令和3年 1月 13日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 3階建ての2階部分のベランダの広さと、ホーム南側に建物が建っていないので、日当たりがいい事です。ベランダに面して吹き出し窓が続いており、独歩自立の方や、車いすでの利用者様は段差など気にする事なく過ごされています。
② 利用者様1人、ひとりに担当がついており、その人らしい生活が出来るように支援スタッフ全員で取り組んでいる。また日常生活などに、センター方式のD-4シートを活用して、細かい点などにも記載している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一人ひとりを深く知り、その人らしい生活を送れるよう寄り添う」ケア理念を大切にしている。日中は、入居者3名に対して1名のスタッフを配置している。入居者一人ひとりのライフストーリーを踏まえた、センター方式のケアプラン作成により24時間寄り添うケアを行っている。室内は、オール電化とバリアフリー構造となっている。リビングは太陽の日差しが差し込み、空気清浄機や加湿器、エアコンが完備され清潔感がある。入居前に使っていた私物をできるだけ生活に活用している。ホーム内ガーデニングなどのイベントで入居者同士のコミュニティと近隣の方々との交流の促進を図り、その人らしい暮らしの実現に努めている。看取りについては、協力医をはじめ医療機関との医療の連携、協働を図り尊厳ある看取りを実現している。職員は接客マナーの自己評価、定期的な内部・外部研修に参加しケア向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を提示し、理念に基づき共有し管理者のもとで実践している。	カンファレンスの際、ケア理念である「利用者一人ひとりを深く知り、その人らしい生活を送れるよう寄り添い支えています」をケアに活かせる方向性を話し合っている。スタッフは勿論、利用者、来訪者にしっかり見えるように掲示、日々のケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症のため外出は控えているので、参加はしていないが、町内会からの回覧はきいているので、情報等は知っている。	町内の回覧版によりイベント情報を収集し、入居者に情報提供している。できるだけ入居者と参加し地域と連携できるよう自治会に加入している。地域の行事は運営推進会議で確認している。継続的に地域の学校に出向いた際、緊急避難場所としてもホームのPRを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症のため、地域交流はないが、他の施設との情報交換は実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症のため、運営推進会議は市からの通達を踏まえて自粛しているが、家族様等に向けて議事録を送付し意見等を募っている。	コロナ禍のため運営推進会議は自粛しているが、情報発信は家族等に向けて継続して行っている。内部で行った議事録(個人情報配慮)や研修で実施したこと等の内容を送付し意見等を募っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ感染症のため、市役所等には訪問していない。	新型コロナ感染症により、市役所等の訪問ができないため、生活保護のケースワーカーや介護保険課、精神保健福祉センター、医療機関等と電話や書面等にて日頃から連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回のホーム内研修にて教育をしている。当社のKYTシートも活用してスタッフ同士の話し合いも出来ている。朝礼などでスピーチロックにならないように注意喚起をしている。	身体拘束ゼロ宣言について担当者会議やカンファレンス等で共有している。新人研修にも必ず取り上げている。KYTシート、センター方式シートを使い、スピーチロックに関する職員の知識や考え方を提出してもらい管理者が確認し、スタッフ間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回のホーム内研修にて教育をしている。発見時の通報義務がある事もスタッフ全員が知っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回のホーム内研修にて成年後見人成年について取り扱った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて、家族や本人の不安や疑問が残らないように、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内に、外部連絡、相談先を記載している。	家族への手紙や電話をする際、何でも言ってもらえる様な会話等に留意している。出された意見や要望、苦情等はホーム内ミーティングや法人職場懇談会で話し合い、ケアへ反映させている。(コロナ禍で面会はできない状況下にある)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回三菱電機ライフサービス((株)として職場懇談会を実施している。質問事項への文章での回答も行っている。	研修会や介護事業部ミーティング、個別面談を月1回程度行い、職員から意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、「寄り添いのケア」を実現するための人的困り事、物的整備、ケア環境テーマを一緒に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員社員制度に基づき、キャリアパス制度を完備、設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事を作成しており、ホーム内・外部と一人ひとりが、自由に受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三菱電機ライフサービス内、介護サービス課のもとで、全国にある事業所に、リモート会議や研修にてお互いに情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメントにて、本人、NS、Drより聞き取りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメントにて、十分な聞き取りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期ケアプラン作成時に入居に至った経緯を踏まえ必要な対応を練り込むように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ間でも、傾聴、共感の姿勢もち、利用者様にも同じ姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ間でも、傾聴、共感の姿勢もち、家族と関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式の理念に基づき本人、背景を踏まえた関わりを日々、指導している。年賀状や近隣の散歩などで関係性を築いている。	利用者一人ひとりを深く知ることができているパーソン・センタード・ケア方式に基づき、本人や背景等の情報収集と分析を踏まえた上で、日々の暮らしの中で支えあったり、馴染みの交流の支援ができるよう務めている。	コロナ禍が終息したら以前のように散歩を行うことで住民との交流ができたり、特別養護老人ホームへ農作業に行ったり、ランチを一緒にするなど馴染みの関係が再開できることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の趣味、性格等を踏まえながら、できる事を色々な視点から見つけて、利用者同士やスタッフ同士で関わりをもち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後、死亡、退去のご家族様と連絡を取り合っており、現在の状況を聞いたり、ホームに顔を出していただき、相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	背景等、事前情報には、必ず2名以上で訪問して情報を得ている。入居後は、担当を決めて本人の直接発した言葉や行動を傾聴、見守りに努めている。	入居前の生活情報を共有し、日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。利用者毎の担当者を配置している。スタッフ同士が言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認しようとしている。意思疎通が困難な方にはご家族、後見人等の関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	背景等、事前情報をもとにカンファレンスにて、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のカンファレンスでモニタリングに加え、担当者がアセスメントを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングに加え、担当者がアセスメントを実施している。口頭では伝えられないことは、個人ファイルを作成しスタッフ間で共有している。	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に詳細に記載されている。利用者毎に月1回のカンファレンスや6か月に1回モニタリングを行い、介護計画作成時にはケアマネジャーと管理者と共に話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シート(D-4シート)を活用している。見たままの様子を記入するように、事実をもとに評価、検討するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの観点から、一人のニーズを意識して取り組むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践力はまだまだであるが、入居前、入居後のアセスメントを充分に行い、地域資源を活かして行けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、かかりつけ医により健康診断を行っている。かかりつけ医、歯科医、眼科医により医療を受けられるようにしている。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医の医療が受けられるよう、家族と協力し通院できる体制ができている。また、歯科等訪問診療が受けられるよう複数の医療機関と関係を密にしている。協力医は24時間体制で看取りにも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雇用契約している看護師と連携し情報を共有している。往診時に訪問看護師とも共有し、介護スタッフも立会い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは受診など同行する機会が多いため情報交換は、常に取っている。また入院中の利用者様状態に関しても必要に応じて、様子を伺いに行くなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関しては入居契約時に、説明、合意を図っている。これを踏まえて終末期には早い段階で医療カンファレンスを行い、家族等と相談の上同意書と介護計画を策定し支援を行っている。	重度化、緊急時はそれに伴う意向確認書を作成し、事業所として「看取りにおける寄り添いのケアで支える」ことについて医師や看護師に相談し、医師の意見書と共に家族に説明を行っている。担当者会議やカンファレンスで話し合った内容を職員全員で共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス等で緊急フローの確認と見直しに努めている。年1回応急手当の研修を行っている。またスタッフ同士の確認も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。夜間想定訓練、バケツの受け渡し訓練も行っている。地域との連携もしており、一人暮らしの高齢者や、災害弱者の受け入れも可能としている。運営推進会議には、町内会長、民生委員、包括支援センターに伝達している。	マニュアルを作成し年2回、想定表を作成し夜間想定訓練やバケツの受け渡し訓練も行っている。地域との協力体制として、一人暮らしの高齢者や災害弱者の受け入れを可能としている。運営推進会議や町内会を通じ協力の呼びかけを継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重点課題として意識している。毎年接遇マナーの研修を行い、利用者様一人ひとりの背景等をみて慣れ親しんだ呼び方をしている。スタッフ間でも、行動や言葉遣いに関しても言える環境にある。介護用の接遇マナーも行う予定である。	法人の理念を踏まえ「寄り添いのケア」を重点課題として意識している。毎年接遇マナーの研修を行い、利用者一人ひとりの背景等をみて慣れ親しんだ呼び方をしている。職員一人ひとりが言葉遣いチェックシートを記載し、スタッフ間でも行動や言葉遣いに関して注意し合える環境整備に努めている。	職員ひとり一人の言葉遣いチェックシートで自己評価している。強化点や改善点を踏まえ分析し、グループワーク等による研修を推進し更なる寄り添いのケア向上を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活ケア、個別に担当者がコミュニケーションを図り、要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン作成時に担当者と共に本人の意思を尊重し、その人らしい視点で考えている。カンファレンス等で決めて実践している。スタッフ間では、その人らしい生活ケアを指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの用品は充実している。朝のモーニングケア時、ホットウォーマーで温めたタオルで顔を拭いていただいている。スタッフと共に、オシャレができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存機能能力を活かして、できる事、できない事を分けて生活ケアに応じて対応している。イベント食をもうけており、四季折々の食事準備にも参加している。	利用者の趣向を聞きながら栄養士がメニューを作成している。お昼は手作りで食事を作っている。昼食前に映像を見ながら職員と一緒に口腔体操をしている。利用者は皿洗いやテーブル拭きをしたり、時にはお好み焼き等を手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示や制約がある利用者様もあり、家族様、本人との話し合いを元に、確認しながら対応するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診の元、汚れや臭いなど教えていただき、声かけや介助をしている。また、口腔ケア用品を活用しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援の視点から時間でのトイレ誘導を行い、変更等があればカンファレンスにて相談し、一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。	自尊心に配慮し利用者ひとり一人の様子から敏感に察知し、精神や身体機能に応じて排泄リズムを把握し排泄ケアをしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パットや紙パンツを選定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師による指導を行い、スタッフ間でも意見交換をしつつ、薬に頼り過ぎないようにして、体操、散歩、食事内容の工夫に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	近年の介護度の重度化により、入浴を拒む利用者様が増えているので、習慣づくりをするために週2回の入浴をしている。入浴時にはリラックスしていただくために入浴剤やスタッフとの会話で楽しんでいただくように努めている。	入浴を拒む人に対して手浴・足浴等から少しずつ進めたり、その人のペースに合わせて、ゆったりした入浴をチームプレイで行っている。入浴できない場合には、ドライシャンプーや新たに購入したベッド上部で洗髪する洗髪槽を使用し清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によるきめ細かいお薬情報シートまたは、薬剤師がいつでも相談受け入れてくれるので、その都度スタッフに周知できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた、作業活動、調理補助、食事後の後片付け、洗濯物たたみ、イベントの飾り作りなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症のため、外出は行っていないが、天気のいい日はベランダに設置してあるテーブルと椅子に座りカフェ気分を味わっていたりするように努めている。	コロナ禍でなかなか外出できていない。感染症予防対策をしながら2階、3階それぞれのバルコニーを積極的に活用している。初日の出や花火を見物したり、天気のいい日はベランダにあるテーブルと椅子に座り、カフェ気分を外気に触れたり、他者交流したり馴染みの関係作りにも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物同行サービスを行っている。残存能力を活かして、支払いなどはレジに行ってもらうなどして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは本人希望により、家族様合意の上で対応している。年賀状などは、極力全員に書いていただき送り対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内では、空気清浄機、プラズマ加湿器に続いて、消毒液が入った加湿器をもう一台設置し、毎月掃除、フィルターを月一で交換している。共同スペースでは四季折々の作品を飾って見ることにより楽しく過ごせるように支援している。	共同スペースでは入居者が懐かしい風景を感じられるよう、四季折々の作品が飾られている。居間はベランダ越しの大きな窓から日差しが差し込み明るい。ベランダではプランターで野菜や花を育てている。空気清浄機やプラズマ加湿器、更に消毒液入りの加湿器も設置され感染症に留意している。オール電化を採用し、全館バリアフリーとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格などを意識し、席などの配置や一人でいられる場所として、ベランダに椅子やホーム内のコーナー等にソファの設定などを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活されていた馴染みの物をお持ちいただき、安全面に考慮しながら、本人と相談上を行っている。	居間は明るく安全面に配慮しながら、本人と相談して、自宅で使っていたベットやテレビ等使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。エアコンやカーテン、クローゼット付きの居室である。温かい雰囲気をかもし出すように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目視による表示、安全かつバリアフリーでの生活。一人ひとりが自立した生活が送れるように配慮している。		